

第2章 将来目標の設定

1. 将来都市像

南丹市は、山林・河川・田園風景などの自然資源や交通環境のほか、付加価値の高い農業、高度医療の環境、多くの高等教育機関の立地、特徴のある観光資源などを活かして、まちの活力向上に努めてきました。

南丹市総合振興計画では、暮らしの舞台である「森」「里」「街」に磨きをかけ、いつまでも住み続けたいふるさとを目指し、まちづくりのテーマとして「みんなの笑顔 元気を合わせ 誇りときずなで未来を創る」、将来の南丹市のイメージとして「森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市」を掲げています。

都市計画マスタープランでは、都市づくりの基本理念としてこれを踏襲し、その実現に向けた具体的なイメージ（将来都市像）を以下のとおり設定します。

つないで個性を磨く 「誇りを持って住めるまち」

【つないで】

南丹市は4つの町が合併したまちであり、府内では京都市に次ぐ広大な面積を有しています。また、総合振興計画でも観光振興などによって交流人口250万人を目標として設定しています。このため、各地区でのまちづくりを積極的に進めるとともに、「人」「もの」「情報」などの連携と交流により各地区間の繋がり、絆を強めていきます。

【個性を磨く】

南丹市には、豊かな自然資源や恵まれた交通環境のほか、付加価値の高い農業、高度医療の環境、多くの高等教育機関の立地、特徴のある観光資源などの個性的で魅力的な地域資源があります。これら一つ一つの個性を磨きあげて、それぞれの地域の魅力を高めていきます。

【誇りを持って住めるまち】

他都市には見られない個性豊かな資源は、南丹市に住む全ての人にとっての誇りです。市民・行政が一体となって、若者が定住できる、高齢者にとっても生活しやすい環境を整え、全ての年代の人が誇りを持っていつまでも住み続けたいと思えるまちをつくっていきます。